

## 国・他自治体青少年行政における現状認識等について

国・他自治体の青少年行政における、子ども・若者などに関する現状認識等について整理しました。

## 1 現状・課題認識

## (1) 子ども・若者について

- 今の若者世代は、同世代が少ない環境にある。
- 「自己肯定感」を有する若者の割合は5割弱で諸外国と比べて低い。
- 若者においては、出会いの多様性が失われ、実際の社会やネット上の交流でも自分の環境と似通ったところで生活圏を閉じる「内閉化」の傾向が強まっている。
- 閉じた世界の中で、濃密な関係性を構築して、仲間グループ以外との人間関係のつながりが少ない。今の人間関係から外れると自分の居場所はどこにもなくなってしまうという排除される不安やリスクが強い。

## (2) 困難を有する子ども・若者について

- 困難を有する子ども・若者については、成育環境において様々な問題に直面した経験を有している場合が多く、例えば、貧困、児童虐待、いじめ、不登校、ニート等の問題が相互に影響し合うなど様々な問題を複合的に抱え、複雑で多様な状況となっている。
- ひきこもりは、様々な要因が背景になって生じる状態であり、具体的には不登校、就職活動の不調、職場への不適応、人間関係の不信等のほか精神疾患や発達障害がみられることもあり、一部には対外的コミュニケーションに支障をきたしている場合もある。
- 若者や家族がひきこもりの状態に陥っているとの認識が薄く、現状をどうとらえてよいかわからない状態、家族が現状を外部に伝えられない、相談することを諦めてしまうなど、ひきこもりは家庭内で潜在化してしまう場合も多い。

## (3) 家庭・地域について

- 三世帯世帯が減少する一方、ひとり親世帯が増加するなど、家庭内において子育てを学び、助け合うことが難しくなり、親が不安や負担を抱えやすくなっている現状にあり、社会全体で子育てを助け合う環境づくりが必要である。
- 地域社会は、家庭や学校とは異なる人間関係や様々な体験の提供を通じて、子どもの健全な成長に重要な役割を有している。しかし、近所付き合いをする人が減少傾向で、町内会に参加していない人が増加傾向にあるなど、地域におけるつながりの希薄化が懸念されている。
- 都市部では、地域の間人間関係が希薄化している。
- 社会全体において、積極的に若者に関わっていこうとする意識は薄くなっている。

## (4) インターネット等の環境について

- 急速なスマートフォンの普及が進み、中、高校生では SNS 等のコミュニケーションアプリの使用割合が高い。
- インターネットは外部とつながるためのツールであり、知識の取得やコミュニケーションの機会を増やす一方で、トラブルが増加するなど負の側面も併せ持つ。
- 急速に進む ICT 社会において、青少年も大人も携帯情報端末の適切な使い方を模索している状況で、大人が子どもの利用状況を十分に把握できない。
- 携帯情報端末の利用によって、家族や友人関係の絆を深める人も多い。災害時に情報共有し助け合う。

## 2 対応の方向

### (1) 子ども・若者への支援について

- 社会全体で若者の生きづらさに寄り添う「サポーター意識」の浸透。
- ICT社会づくりへの子ども・若者の力の活用。子ども・若者を「大人が指導しなければならない対象」ととらえるのではなく、「一緒に社会を作る仲間」ととらえ、その能力を十分発揮する機会を整える必要がある。

### (2) 困難を有する子ども・若者への支援について

- 困難を有する子ども・若者に対しては、関係機関等の施設はもとより、住居その他の適切な場所において必要な相談、助言又は指導を行うことが必要である。(アウトリーチ等の支援)
- 最適な相談・支援機関を容易に見つけることができる仕組みや、若者や家族に SNS 等のブッシュ型の情報発信構築。
- 多様な支援機関等が得意分野を生かしてスクラム連携する。

### (3) コミュニケーションについて

- 青少年期から地域活動やボランティア活動等への参画、多様な価値観・年代との交流の機会を通じ、主体的に活動し、自らが社会の構成員として重要であるという自己有用感を感じることで、内閉化した世界以外に広く、多様な世界があることを心から理解してもらうことが重要。
- 今後のICT社会において、自分と異なる考えを持つ相手を理解しようとする態度が一層求められる。相手の気持ちや考え、行動を知り、行動するコミュニケーションスキルを養う必要がある。
- ネット上でも、リアルなコミュニケーション上のマナーや心がけ、スキルが参考になる部分も多い。どのようなコミュニケーションの方法であっても重要となるコミュニケーションスキルを養う必要がある。

### (4) インターネット等の環境について

- スマートフォンの普及が生活圏の内閉化をもたらす一因で、スマートフォンの使い方を学ぶ講座等で人間関係を広げるような SNS 等の使い方や SNS 等で犯罪に巻き込まれることを防止するための項目を充実させる。
- 子ども・若者・大人と一緒に学ぶ機会の創出。誰かが決めたルールをただ守らせるのではなく、子どもも若者も大人も一緒に考え学ぶ。
- 家庭生活・学校生活・社会生活の充実。ICTの活用により日々の生活がより豊かになるよう、情報活用能力を育成しつつ、基本的な生活を充実させる必要がある。
- 失敗しても大丈夫な環境や支援体制の構築。ネット上での失敗は取り返しがつかないが、失敗の拡大を防ぎ、失敗からの回復を図ることができるよう支援し、失敗によって学ぶことができる環境や支援体制を整える必要がある。

## <参考文献>

「子供・若者育成支援推進大綱」(平成28年2月9日子ども・若者育成支援推進本部決定)

<http://www8.cao.go.jp/youth/wakugumi.html>

「生きづらさを抱える若者の社会的自立に向けた支援について」(第31期東京都青少年問題協議会意見具申) <http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/seisyounen/singi/seisyokyo/>

「ICT社会における子ども・若者の人間関係づくりへの支援」(第28期静岡県青少年問題協議会意見具申)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-080/mondaikyougikai/seishounenmondaikyougikaitoppage.html>